

桜が散ったと思ったらもう新緑の世界になってしまいました。葉っぱの勢いってすごいですね。子どもたちも、と言いたいところですがまだまだ、だんだんです。だんだんが子どもたちのいいところでもあります。

今のところ、毎日園バスに乗っているのですが、バスの中の会話でどうしても上位に食い込んできてしまう話題は、新入児さんの「次に乗るのは誰？」攻撃です。毎日毎日必ず「次誰？」「次は〇〇くん。」「その次は誰？」「〇〇ちゃんだよ。」「その次は？」・・・バスに次の子が乗ってくるたび、上の会話が繰り返されます。全員乗るまで続きます。何日かはまたかと思いながらも返答しますが、週の後半くらいになるとこちららも「聞こえなかったフリ」作戦に切り替えたりしてしまいます。すると、「次は誰が乗るの？」「・・・。」「ねえ次誰？」「・・・。」「〇〇ちゃん？」「!?そう！」 知ってんなら聞くなよ～っと一瞬思ってしまったのですが、大人は同じことを何遍も言っているとめんどくさくなってきてしまうものです。繰り返し伝えていたことでその子が覚えたんだと考えたとき、子どもたちの「物事を把握するスピード」や、「いつの間にか学んでいる能力」を再確認することができるのです。さらに言わせてもらえれば、それをなんとなく聞いている周囲の子たちにも、知らぬ間にお友達の顔や名前を覚えるきっかけになっている可能性は低くはないはずです。もっと言わせてもらえば、繰り返し言わされていた私自身が、顔と名前とバス停をいち早く覚えられたことに感謝せざるを得ません。自分の記憶力が凄いのかと思ってました。

もうひとつに、その子は自分の中にある不安という感情をなんとかぬぐい去ろうと、同じことを何度も繰り返しているのかもしれない。泣く、という行為と同じです。一言も口をきかず、黙ってバスに乗っている子も同じなのかもしれません。新しい環境に馴染んだり溶け込んだりすることは、人によってとても時間のかかることです。ただ、すぐには慣れてはいけないけれど、新しい場面に出会うことによって、知ることができたり見ることができたり、覚えることができたり学ぶことができるきっかけになっていることは確かです。

そう考えると、子どもたちってスゴイと思います。新しい世界との出会い第1章にまずは乾杯しましょう。つづく

今月のねらい（育ってほしい姿や経験してほしいこと）

3歳

- ・ 一人遊びを充分楽しむ
- ・ 友達の名まえやマークに興味をもつ
- ・ みんなでいるところで遊んだり、見たり聞いたりすることの楽しさを知る
- ・ 園生活の流れがわかり、身の回りの始末を自分でやろうとする

4歳

- ・ 園生活のリズムになれて活動や遊びにすすんで参加しようとする
- ・ 自分の意見が言える(うれしいことや悲しいことを自分なりの言葉で表す)
- ・ 相手のことも聞こうとする

5歳

- ・ 自分がしたいと思う遊びをくりかえし楽しむ
- ・ 今日、明日何をするという短期の目的だけでなく、比較的長期の見通しが漠然とでもわかって行動できる
- ・ 互いに言いたいことが言える(認め合い)